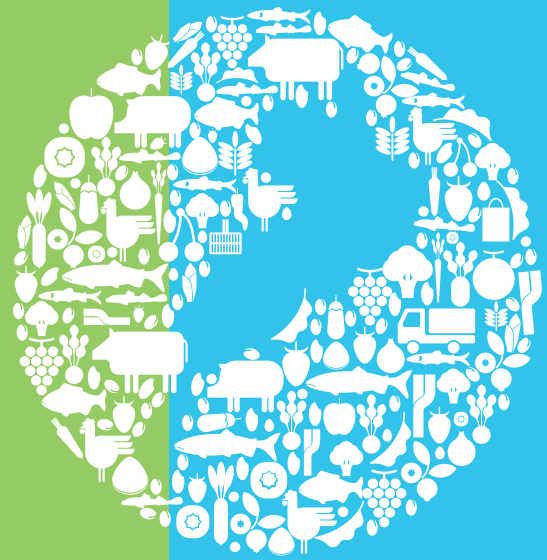


県民みんなで創る

滋賀の 「食と農」を通じた 「幸せ」

1



幸せのカタチ
10年後の
わたしたちへ

令和3年

滋賀県

県民みんなで創る 滋賀の「食と農」を通じた「幸せ」

農業者・漁業者が、滋賀の農畜水産物を育てる・採る「幸せ」

流通・小売事業者が、滋賀の農畜水産物を消費者へ届ける「幸せ」

消費者が、滋賀の農畜水産物を選ぶ・食べる「幸せ」

これらの「幸せ」を生み出す滋賀の農山漁村がある「幸せ」



私たちの滋賀の「食と農」を通じた「幸せ」は、農業者・漁業者、流通・小売事業者、消費者等、立場の異なる多様な人が「食と農」を通じてつながることで創り出され、私たちに届けられています。これらの「幸せ」を生み出す滋賀の農山漁村は、県民みんなの貴重な財産であり、滋賀で暮らす私たちの「幸せ」を支えています。本計画は、県民みんなで創る滋賀の「食と農」を通じた「幸せ」を基本理念とし、滋賀の農業・水産業が目指す2030年の姿の実現に向けた施策の展開方向を示します。

第2章 目指す2030年の姿



私たちは第1章で示した基本理念を念頭に置き、滋賀の農業・水産業が目指す10年後(2030年)の姿を、「農業・水産業と関わる『人のすそ野』を拡大する」を共通視点として、その上に「経済活動としての農業・水産業の競争力を高める」、「豊かな資源を持つ農山漁村を次世代に引き継ぐ」、「琵琶湖を中心とする環境を守り、リスクに対応する」の、合わせて4つの視点から描きます。

2030年に向けた4つの視点と 14の施策

共通視点「人」 農業・水産業と関わる「人のすそ野」を拡大する

- 人 1 新規就農者・新規漁業就業者等を確保する
- 人 2 滋賀の農業・水産業のファンを拡大する
- 人 3 県産農畜水産物を積極的に取り扱う食品関連事業者を増やす
- 人 4 農業・農作業の持つ多面的機能を活かした共生社会をつくる

視点「経済」 経済活動としての農業・水産業の競争力を高める

- 経済 1 農業・水産業がより魅力ある職業になる
- 経済 2 需要の変化への確かな対応と新たな需要の開拓や販路拡大に向け、農地・農業技術等をフル活用する
- 経済 3 近江牛をはじめとした畜産物を持続可能な形で安定生産する
- 経済 4 儲かる漁業を実現し、琵琶湖漁業を継続する
- 経済 5 近江米、近江牛、近江の野菜、近江の茶、湖魚等の「滋賀の幸」のブランド力を高め、消費を拡大する

視点「社会」 豊かな資源を持つ農山漁村を次世代に引き継ぐ

- 社会 1 農業水利施設や農地等の農業生産における基礎的な資源を次世代に引き継ぐ
- 社会 2 集落の力と多様な主体との連携・協働により農山漁村の持つ多面的価値を次世代に引き継ぐ

視点「環境」 琵琶湖を中心とする環境を守り、リスクに対応する

- 環境 1 農業の営みと琵琶湖を中心とする環境の保全を両立する
- 環境 2 琵琶湖を中心とする環境の保全再生を進め、健全な循環のもと水産資源を回復させる
- 環境 3 気候変動による自然災害等のリスクに対応する

<お問い合わせ先>

滋賀県農政水産部農政課

電話：077-528-3812 / FAX：077-528-4880

▼詳しくはこちら▼





Q 地元の農業や漁業で働く人たちが減っています。応援するにはどんなことをすればいいの？

A 農家さんや漁師さんはもちろん、食材を運ぶ人、小売店・飲食店など食材を扱う人、その食材を食べる消費者など、さまざまな立場で応援してくれる人が必要です。まず「地元産を選んで食べる」ことから始めてみて下さい。



▶動画もチェック!
第3章 政策の方向性
共通視点

人

農業・水産業と関わる「人のすそ野」を拡大する

立場の異なる多様な人々が「食と農」を通じてつながる中で生まれる「幸せ」が、私たちに届けられています。それぞれの立場から「食と農」に関わり、支える人々の存在が必要不可欠です。子どもから大人まで、全ての世代が滋賀の農業・水産業を学び・知り、購入・消費し、さらに交流・体験する人が増える、そのような「人のすそ野」が拡大している姿を目指します。

人・1 新規就農者・漁業就業者等の確保

人・2 滋賀の農業・水産業のファン拡大

人・3 県産農畜水産物を取り扱う食品関連事業者の拡大

人・4 農業の多面的機能を活かした共生社会づくり



Q 農業・水産業は大変な仕事だと思います。安定して経営するために工夫されていることは？

A 生産だけでなく、食品加工や販売など複数の部門に取り組み、ブランドを確立するためにそれぞれの分野で日々頑張っています。



▶動画もチェック!
第3章 政策の方向性
視点

経済

経済活動としての農業・水産業の競争力を高める

農業者・漁業者が営みを続けていくには、十分な収入を確保する必要があります。そのためには、消費者等に優先的・継続的に選ばれ、品質の高い農畜水産物を安定的に供給する力が求められます。経済活動として農業・水産業が持続的に発展する力（競争力）が高まる姿を目指しています。

経済・1 農業・水産業をより魅力ある職業に

経済・2 需要の変化への対応と農地・農業技術等のフル活用

経済・3 近江牛等の畜産物の持続可能な安定生産

経済・4 儲かる漁業の実現

経済・5 「滋賀の幸」のブランド力向上および消費拡大



Q 豊かな資源を持つ地域を、次世代へ引き継ぐために、どんな取り組みをしているの？

A 地元の方々と話し合いを進めて、草刈りや水路掃除などの活動を行い、農作業のしやすい環境整備に努めています。



▶動画もチェック!
第3章 政策の方向性
視点

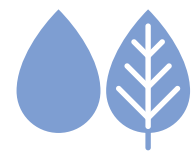
社会

豊かな資源を持つ農山漁村を次世代に引き継ぐ

滋賀の農山漁村は、琵琶湖を中心とした営みの中で、独自の食文化・伝統文化を育んできました。持続的・安定的な農業生産のためには、それらを次世代に引き継ぐことが重要です。その実現に向けて、水利施設等の保全や農地整備など地域資源の保管理を推進します。また集落内の一部住民の方々だけでなく、企業・大学等の多様な人々との連携によって、ハードとソフトがそろった「社会」を次世代へ伝えていきます。

社会・1 農業水利施設や農地等の基礎的な資源を次世代へ継承

社会・2 農山漁村の多面的価値の継承



Q 琵琶湖の環境を守りながら、漁業を続けるにはどうすればいいの？

A 美しい琵琶湖があってこそ漁業ができます。最近、琵琶湖の魚と一緒にプラスチックゴミが網にかかることがあります。みんなで琵琶湖を大切に作る取り組みを進めたいです。



▶動画もチェック!
第3章 政策の方向性
視点

環境

琵琶湖を中心とする環境を守り、リスクに対応する

将来にわたり、農業・水産業の営みと琵琶湖を取り巻く環境保全を両立させるために、農業者は環境こだわり農業の継続・廃プラスチックの排出抑制等、漁業者は水産資源の回復等に取り組むことが大切です。また気候変動による異常気象に対応した生産技術対策、大規模自然災害から施設等を守る対策、CO₂ネットゼロ社会づくりへの貢献など、リスクに対応することで食料の安定供給や確保につながります。

環境・1 農業の営みと琵琶湖を中心とする環境の保全を両立

環境・2 琵琶湖を中心とする環境の保全再生

環境・3 気候変動による自然災害等のリスクへの対応